



実行委員長 大林 剛郎

このたび2017年慶應連合三田会大会の開催にあたり、ご来場いただきました塾員の皆様、ご協賛の企業各社様、ご協力くださった地元日吉の皆様方、各三田会、また慶應義塾と連合三田会関係者に、厚く御礼申し上げます。

今大会は、スローガン「若き血を胸に、未来へ」とありますように若き血90周年を祝い、また建て替えられる日吉記念館を惜しむ、記念すべき大会にしようと準備してまいりました。ハーモニーを表現するオリジナルロゴマークを載せた記念品を多数

ご用意、また東横線日吉駅ホームで初めて「若き血」発車メロディが採用され、お出迎えに備えました。

10月15日(日)の大会当日は、折からの雨にもかかわらず、日吉キャンパスは約18,800名の来場者でにぎわい、大きな事故や怪我もなく一日を楽しんでいただくことができました。

記念式典では、長谷山彰塾長からのご祝辞で「日吉記念館は塾の歴史の証人であり、『練習ハ不可能ヲ可能ニス』と小泉信三元塾長が述べられた時も、この

壁は聞いていたはずですよ」とお話しいただき、その歴史の節目に立ち会う一員であることに誰もが感慨を深くしました。

その記念館では、COBU(鼓舞)さんの和太鼓、シンガーソングライターの尾崎裕哉さん、そして中村雅俊さんのスペシャルライブが行われ、人気を博しました。またキャンパス内の各ゾーンでもサッカー慶早戦、ダンス、走り方教室、講演会、ワインセミナー、「スマホで日吉探検」などイベントが多数行われました。

恒例の福引抽選会は、ご協賛により多数の豪華K賞～O賞を揃えることができ、

第1回抽選から第2回にかけのべ3,000名近い方々を集め、大いに盛り上がりました。

記念館前の広場と第4校舎前中庭には、模擬店、酒蔵の名店が揃い、雨の中で運営に大変苦労されながらも、来場者に美味しい料理と飲み物を提供してくださいました。

また、今年卒業50年となる1967年卒の先輩の皆様をご招待し、記念式典にご参列いただき、その後、懇親会会場に場所を移し、懐かしい思い出話に花を咲かせている様子でした。

そして最後の「若き血グランドフィナーレ」は、満場の皆様、登壇者・出演者とで肩を組み、「若き血」と「慶應讃歌」を大合唱。感無量で日吉記念館と今大会に別れを告げることができました。

結びにこの誌面をお借りしまして、この日のために数年をかけて準備し無事大会を成功に導いた、実行委員4世代の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、来年度2018年慶應連合三田会大会の成功をお祈りして、今大会終了のご報告とさせていただきます。

### 慶應連合三田会大会当日の様子



### 実行委員慰労会

2017年慶應連合三田会大会 実行委員慰労会が、11月13日(月)品川プリンスホテルプリンスホールで開催されました。平日にもかかわらず慰労会には慶應義塾や連合三田会の関係者、実行委員あわせて759名が出席し、大盛会となりました。

第一部では塾歌斉唱に続き、比企能樹連合三田会会長、大林剛郎大会実行委

員長、駒村圭吾慶應義塾常任理事よりご挨拶があり、続いて大林実行委員長より栗谷文治日吉キャンパス前事務長に謝礼が贈呈されました。さらに大林委員長より2018年慶應連合三田会大会の増岡隆一実行委員長のご紹介と、増岡委員長のご挨拶が続きました。その後、吉村泰輔連合三田会副会長の乾杯ご発声で会食・歓談がスタートしました。

大会当日からすでに一か月弱が経過

していましたが、大仕事をやり遂げた実行委員は本番の熱気も冷めやらぬまま、お互いの健闘を讃えあい、あちらこちらで懇親の輪がひろがりました。

第二部は138三田会の岡安譲関西テレビアナウンサー、末武里佳子テレビ東京アナウンサーの司会で始まり、日吉記念館でのCOBUさん、尾崎裕哉さん、中村雅俊さんのライブ映像などが大スクリーンで披露されました。大会当日は持ち

場を離れられなかった実行委員たちも、映像でライブの雰囲気を堪能しました。

その後、井上善雄運営本部長よりご挨拶があり、続いてお楽しみの福引抽選会を開催。豪華賞品の当選者が次々と決まり、喜びの音があがりました。その後の歓談タイムでは、大会当日の実行委員の奮闘ぶりがスライドショーで紹介されました。

名残りは尽きませんでしたが、島田新一運営統括本部長が中締め、最後に

応援指導部OBのリードにより、「若き血」「慶應讃歌」を全員で肩を組み斉唱し、お開きとなりました。

4世代に亘る実行委員が「社中協力」の精神で準備に取り組み、大会を成功裡に終えられたことを全員で祝う会とすることができました。これもひとえに慶應義塾、連合三田会の皆様のご支援の賜物であり、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

(大会実行委員会)

